

ひたちじ

つぼみ

常陸路の 蕾み桜の 残り香に

さとかわ

折にし想ふ 里川の橋

令和七年三月二十三日

大中臣正比呂



三人も文筆家がいると酒席は妄想が膨らんだ談義となって、大変である。共通する青春時代があると尚更で、フェイクなのか事実なのか、殆ど分らない。同席の、物理を専攻した友だけは根拠を示してくれる。

月と地球は不思議なことに、自転と公転が同期しているが、何故か？

それは「潮汐ロック」だよと教えてくれた。聞いただけで瞬時に理解が進む言葉は中々便利なものだ。天体の相互引力は距離の関数であろうから、宇宙では、おのずと潮汐ロックが起こる範囲は定まるだろう。

半世紀前に聞いていたら、彼我の関係も「見つめ合う恋」であつたろうに。

カーペンターズの「There's a kind of hush」が聞こえてくる。